

安心して学べる独自の授業で、あきらめない生徒を育てる。

授業にもクラス運営にも「これはいい!」と思うことは積極的に取り入れている横山北斗先生。その実践の中身と教師という仕事のおもしろさについてうかがった。

さまざまな将来の選択肢の中から、「自分にしかできないことは、教育にある」と考え、数学科の教師になって3年目。試行錯誤を繰り返しながら「生徒にとって有意義な授業」を追求し、実践し続けている。

「1年目から協同学習を取り入れたのですが、その良さをあまり生かせなかったので、2年目は通常の講義型に戻しました。それなりに成果はあったのですが、もっと効果的な授業のやり方があるはずと思い、3学期から授業を改善しました」

その一つがノートを取らせない授業。「メモ程度にしてもらい、とにかく解説に集中してもらおうにしました。概ね生徒の反応は良く、復習としてまとめのノートを作成する子が増えました。頭が一番疲れる授業などと言ってくれる生徒もいましたね」

次に導入したのがアクティブラーニング型の授業と問題演習だけで進める授業。ここでは生徒の学び合う力を信じ、教えるのではなく、極力生徒同士を“つなぐ”役割に徹している。多少脱線しても楽しんで学んでいることが大切ととらえ、ほとんど口出しをしない。だが「生徒は前のめりに学んでくれ

る。やる気がないのではなく、わからないから逃げていただけ。生徒の意欲はやり方次第で高まるのだと実感しています」。さらに現在はICTを導入した授業にも挑戦中だ。

教師は生徒の「プラス」を増やしていく仕事

安心して学べる雰囲気作りも心がけている。そのかいあって、わからない問題は、ほかの子にたずねる生徒が増えたそうだ。

クラス担任は今年度で2年目。「自分の発することすべてが教育になる」と思い、どんなことにも真摯に取り組む。「でも、実は褒めるのが苦手なので、何かしら成果を出した生徒には、LHRで表彰し、些細なお菓子を配ったりしています」。進路指導では「自分で決めること、それに対して自分で責任を取ること」の重要性を説く。「人や環境のせいにしても仕方ないことを理解してほしい」。まだまだ失敗も多いが、授業でもクラスでも自分の実践が少しでも生徒に役立てばと言う。「生徒一人ひとりのプラス面をもっと引き出していきたいです」。



東京・私立関東第一高校
横山北斗先生 (29歳)

1984年東京都生まれ。埼玉・私立西武学園文理高校卒業。東京大学農学部で生命工学を専攻していたが、現在勤める高校で大学生チューターを経験したのを機に、教育に関心をもつように。東京大学大学院教育学研究科へ進学し、一時は別の道を志すものの、やはり現場で勝負したいと思い、現勤務校からの誘いを受ける。「数学科の教員として来てほしい」と言われ、修了を1年延ばして教職課程と数学の単位取得。2011年4月より現職。趣味は大学時代から本格的に始めたバドミントン。

fan message



「机上の秀才」が現場に揉まれ、本物になった一現実は理想どおりにいかない。でも、苦しみながらも冷静に自己批判し、次から次へと改善策を考え、授業やHRで実践しているという人。ぜひリーダーとして若手の先生方を引っ張ってほしいです。(関東第一高校国語科教諭 川合智先生)



横山先生が実践しているのは「協同学び」を軸としたコの字型&グループ学習。「何を学べばいいのか、どう勉強をしたらいいのかを、自然に体得できるように進め方を心がけています」